

【別紙様式3】


再評価実施事業調書

番号	1	事業名	社会資本整備総合交付金（河川事業）		路線又は箇所名等		一級河川利根川水系 印旛沼		
事業所管課		河川環境課		事業主体			千葉県		
事業化年度	平成15年度	用地着手年度	—		工事着手年度	平成16年度	再評価の理由	再々評価	
費用便益比 B/C	3.6 (3.6)	総費用	143.7億円 (81.5億円)	総便益	523.5億円 (290.8億円)	基準年			

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

<p><b>【事業概要】</b>                  （目的）                  印旛沼では昭和40年代以降、人口増加、市街地の発展に伴って、家庭や工場・事業所からの負荷により、水質が悪化し、度々アオコが発生するようになった。さらには、近年水質が連続で全国ワースト1となるなど、決して良好な状態であるとは言えない。こうした水質の悪化を改善すべく、植生帯の造成や底泥浚渫、河川浄化施設整備を行い、「恵みの沼」を再生することを目的とする。</p>											
<p><b>【事業の進捗状況】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>全体計画（億円）</th> <th>事業実績費（億円）</th> <th>残事業費（億円）</th> <th>進捗率（%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>150.0</td> <td>43.2</td> <td>106.8</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table> <p>①植生帯造成 2.0km/12.1km (17%)    ②底泥浚渫 96,590 m<sup>3</sup>/670,000 m<sup>3</sup> (14%)                  ③浄化施設整備 0ヶ所/1ヶ所 (0%)</p>				全体計画（億円）	事業実績費（億円）	残事業費（億円）	進捗率（%）	150.0	43.2	106.8	29
全体計画（億円）	事業実績費（億円）	残事業費（億円）	進捗率（%）								
150.0	43.2	106.8	29								
<p><b>【社会経済情勢等】</b>                  ○流域状況                  下水道整備、浄化槽の導入等が進んでいるものの、流域人口は増加傾向にある。また、流域の土地利用は市街地等が増加傾向にある。                  これまで、様々な対策を進めてきたことにより、最も水質が悪化した時期に比べると水質（COD）は改善しているものの、依然として高い水準（近年11～12mg/L）で横ばいに推移しており、環境基準（COD75%値3mg/L）には達していない。                  ○水質状況の変化（COD）                  ◇過去最も高かった年の平均値                  （北印旛沼）COD・・・13mg/l（H6）    （西印旛沼）COD・・・12mg/l（H11）                  ◇現況値（H28）                  （北印旛沼）COD・・・11mg/l    （西印旛沼）COD・・・11mg/l</p>											
<p><b>【対応方針（案）】</b>                  印旛沼流域では、人口増加、市街地面積割合の増加は続いているものの、本事業の推進、関連施策を推進しているため、現状の水質を維持しているところである。                  現時点においても、地域の水質改善の要望は強く、事業の投資効果も見込まれることから、事業を「継続」したい。</p>											

【別紙様式 4】

事業概要図																							
番号	1	事業名	社会資本整備総合 交付金（河川事業）	路線又は箇所名等	一級河川利根川水系 印旛沼																		
<p>■植生帯造成</p> <table border="1"> <tr> <td>内容</td> <td>○印旛沼の湖岸に植生帯を造成 ○かつて生育していた水生植物を再生</td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td>○水生植物による水質改善 ○植物群落による生物生息環境の向上</td> </tr> <tr> <td>規模</td> <td>○整備済み：2.0km ○全体計画：12.1km</td> </tr> </table>  <p>■底泥浚渫</p> <table border="1"> <tr> <td>内容</td> <td>○水質汚濁の原因となる湖底浮泥の除去 ○植生帯造成土の確保</td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td>○水質悪化の防止・低減</td> </tr> <tr> <td>規模</td> <td>○浚渫済み：9.7万m<sup>3</sup> ○全体計画：67.0万km<sup>3</sup></td> </tr> </table> <p>■浄化施設整備</p> <table border="1"> <tr> <td>内容</td> <td>○汚濁した河川・水路に水質浄化施設を整備</td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td>○汚濁した河川の水質改善 ○印旛沼に流入する汚れの削減</td> </tr> <tr> <td>規模</td> <td>○全体計画：1箇所</td> </tr> </table>						内容	○印旛沼の湖岸に植生帯を造成 ○かつて生育していた水生植物を再生	効果	○水生植物による水質改善 ○植物群落による生物生息環境の向上	規模	○整備済み：2.0km ○全体計画：12.1km	内容	○水質汚濁の原因となる湖底浮泥の除去 ○植生帯造成土の確保	効果	○水質悪化の防止・低減	規模	○浚渫済み：9.7万m <sup>3</sup> ○全体計画：67.0万km <sup>3</sup>	内容	○汚濁した河川・水路に水質浄化施設を整備	効果	○汚濁した河川の水質改善 ○印旛沼に流入する汚れの削減	規模	○全体計画：1箇所
内容	○印旛沼の湖岸に植生帯を造成 ○かつて生育していた水生植物を再生																						
効果	○水生植物による水質改善 ○植物群落による生物生息環境の向上																						
規模	○整備済み：2.0km ○全体計画：12.1km																						
内容	○水質汚濁の原因となる湖底浮泥の除去 ○植生帯造成土の確保																						
効果	○水質悪化の防止・低減																						
規模	○浚渫済み：9.7万m <sup>3</sup> ○全体計画：67.0万km <sup>3</sup>																						
内容	○汚濁した河川・水路に水質浄化施設を整備																						
効果	○汚濁した河川の水質改善 ○印旛沼に流入する汚れの削減																						
規模	○全体計画：1箇所																						

【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	社会資本整備総合交付金（河川事業）	路 線 又 は 箇 所 名 等	一級河川利根川水系 印旛沼
事業化年度	平成 15 年度	用地着手年度	—	工事着手年度	平成 16 年度

【再評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 24 年度	供用開始年度	平成 18 年度	対応方針	継続
B/C	3.4	総費用	119.8 億円	総便益	406.4 億円

再評価時の委員会の意見 及び当時の状況

平成 25 年 3 月 第 8 回手賀沼・印旛沼・根木名川圏域流域懇談会印旛沼部会  
事業再評価「継続」

再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況

	計 画	進捗状況	5 年後の想定進捗状況
全体事業費	150.0 億円	30.8 億円	46.3 億円
用地取得面積	—	—	—
供用面積（延長）	—	—	—

【再々評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 29 年度	供用開始年度	平成 42 年度	対応方針	継続
B/C	3.6	総費用	143.7 億円	総便益	523.5 億円

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況
全体事業費	150.0 億円	43.2 億円 (29%)
用地取得面積	—	—
供用面積（延長）	—	—

再評価後の経過及び処理状況

○事業の進捗の見込み

- ・水質改善については、地域から強い要望があり、湖沼水質保全特別措置法に基づく第 7 期印旛沼湖沼水質保全計画（平成 29 年 3 月策定）においても、湖沼の浄化対策として、植生帯の整備等が位置付けられている。

○コスト縮減

- ・浚渫発生土を植生帯造成等として用いることにより、コスト縮減を図っていく。
- ・今後も新技術利用の可能性について、引き続き検討していく。